

令和元年（2019年）12月20日
山口県病虫害防除所

1 害虫名 : コスカシバ (*Synanthedon Hector* (Butler))

2 発生作物名 : ナシ

3 特殊報の内容 山口県における被害の初確認

4 発生経過

(1) 発生確認年月日 : 平成31年3月20日（下関市）、令和元年6月3日（周南市）

(2) 発生地域 : 下関市、周南市

(3) 確認の経緯

ナシにおいて、主幹部の樹皮下に食害を受ける被害が発生した。3月に樹皮下を食害するチョウ目の幼虫を採集し、鳥取大学農学部の中秀司准教授に同定依頼した結果、外部形態によりコスカシバと同定された。

(4) 発生状況等

北海道、本州、四国、九州に分布する。

5 本虫の特徴

(1) 被害の状況

幼虫は形成層を食害する（図1）。加害部の樹皮から虫糞が排出されるため、被害に気付くことができる。被害は老木に多く見られ（図2）、20年生程度の園地においても被害が発生する事例もある。

(2) 形態

老齢幼虫は体長30mm程度で全体的に白色、頭部および前胸背は褐色である（図3）。成虫（図4）の前翅開長は30mm程度で雌が雄よりやや大きい。前後翅共に、透明紋が大きい。成虫は全体的に黒色だが、雌雄とも腹部背面の2、4及び5節後縁に黄色の帯があり、腹部腹面の4、5節が全体に黄色になる（図5）。

(3) 生態

ウメ、モモ、サクラの害虫として著名だが、ナシからの記録は極めてまれである。ナシにおける発生消長には不明な点が多い。樹皮下に蛹室を作って蛹化するが、蛹は樹皮から突出して羽化する（図6）。6月から羽化を開始するが、その時に中齢程度の幼虫も認められ、ステージには幅がある。産卵盛期は夏期と考えられている。

幼虫で冬越しするが、老齢で越冬した個体は春から初夏に、若齢で越冬した個体は夏から秋に羽化するため、瀬戸内を含む暖地では6月と9月に出現ピークがあることが知られている。

6 防除対策

虫糞を目印に加害場所を見つけ、粗皮剥ぎを実施して幼虫を捕殺する。



図1 被害部の樹皮下（中央に幼虫）



図2 被害を受けた老木



図3 老齡幼虫



図4 雌成虫（背面）



図5 雌成虫（腹面）



図6 羽化した蛹